

事例報告の後は、当日ご参加いただいた青森市医師会 副会長 北畠 滋郎 先生、青森県健康福祉部 医療薬務課 佐々木 久美子 様と三浦 拓 様、青森市福祉部 高齢者支援課 斉藤 雄 様より総評として、『薬剤師』という職能をもっと多方面にアピールすべきではないか、多職種間でお互いの職能を理解し上手に活用する事、連携の重要性など貴重なご意見をいただいた。

今回の研修会は短期間での計画・準備となってしまったため、委員の皆様には負担を強いる形になってしまった事をお詫び申し上げます。事例提供の依頼に苦慮した部分もあり、事前の準備期間はある程度必要と感じました。また、上十三地区同様、青森地区でもアンケート実施を検討しておりましたが、6圏域である程度共通という事や準備時間不足などの理由より、実施いたしませんでした。

多くの方に薬剤師の在宅でのニーズやメリットを感じていただけたと考えております。お忙しい中、多職種、関係団体の方々にご出席いただき改めて感謝申し上げます。

平成 30 年度在宅医療研修会（病床機能転換専門研修）

報告者：相馬 渉

12月6日（木）に弘前市において、青森県の委託事業である表記研修会が62名（薬剤師44名、他職種18名）の参加により開催されました。

今回の弘前地域では、

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1、平成29年度のおためし事業等の報告 | 医療保険委員会 委員 相馬 渉 |
| 2、事例報告 | 医療保険委員会 委員 加藤 傑 |
| ワークショップ 30分 全体報告 20分 | |
| 3、総括 | 会長 木村 隆次 |

という次第で行われました。

当日は、雪がたくさん降り、悪天候のため、事前申し込みが72名でしたが、10名のキャンセルがあり、62名の参加者でした。事業報告を20分、事例報告を10分と、時間どおりに行うことができました。事例報告を受けて、30分のグループワークを行いました。あらかじめ、6名グループに分け、ファシリテーターを一名決めて、事前をお願いしていたことで、ワークをスムーズに進行することができました。各グループには必ず1名以上多職種がいるように配置したが、Iグループのみ薬剤師のみグループで、最後に気が付いたので、始まる前に変更すればよかったです。予定では、40分のワークを行い、3グループに報告してもらう予定でしたが、グループワークが盛り上がっていたので、30分にしてすべて11グループに報告してもらうようすると、いろいろな意見がでて、有意義なグループワークになりました。

最後に、木村会長から総括してもらい、今後もさらにケアマネと連携していく必要性を教えてくださいました。多くの方が、満足した研修と高評価でした。

開催にあたり、3回の委員会を開催して、内容を検討したため、事前準備をしたので、うまく進行ができたと思います。今回の研修会の案内の周知に苦労しました。

12/4にも、多職種向けの医師会主催の在宅症例検討会もあり、なかなか多職種の参加がなかったと思います。

今回の研修会の満足度と次回の研修会のテーマを知りたかったので、アンケートを実施しました。以下にアンケート結果を報告します。

今後取り扱って欲しいテーマについて

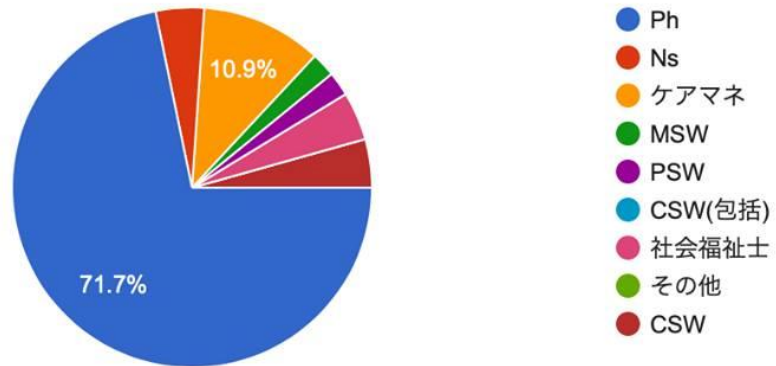
- ・薬局薬剤師に対するケアマネなどの意見をもっと知りたい。
- ・在宅を受けた患者家族の意見が知りたい、満足度、不満点など
- ・在宅依頼を受けたが金銭面で嫌がる患者への対応
- ・輸液について（計算等も含めて）他職種との症例検討会
- ・多職種との意見交換をまじえての研修会
- ・在宅での取り組みの例、多職種の連携とか、多職種からの報告
- ・はじめて参加したので薬剤師の機能について勉強になりました。p s wとしては薬剤師会の研修に参加するのに勇気がいるものでした。
- ・もう少し踏み込んだテーマでディスカッションしたい。
- ・在宅におけるうつ病の患者との薬を通しての信頼関係
- ・薬剤師、介護それぞれ日ごろ感じていることをもっと多く意見を出し合って相互の距離を縮めてはどうでしょう。その中で出た意見から次の課題（取り上げたい）があると思います。
- ・簡易懸濁法を実際にやってみて詰まる様子など体験することで他職種への情報提供力の育成はどうでしょう。
- ・医師とやりとりをした事例なども知りたいです。
- ・他職種の話を聞くことができたことは収穫であった。
- ・薬剤師以外の方の参加がもっとあれば。在宅が進めばもっと出席していたのかなと。
- ・介護サービスや仕組みについて知りたいです
- ・訪問後の報告書には何が求められているのか、書くべき項目について
- ・ポリファーマシーについて
- ・実際できると思い退院していった方も服薬管理不良となっていた方多くいらっしゃるため、退院されていく患者さんへこの度頂いた薬局マップを活用して情報提供していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・認知機能が低下した利用者への在宅の方法
- ・Phの職能をアピールする場ではなく、逆に他職種にPhが質問をする場
- ・在宅の実例について（問題点等）
- ・他職種とのかかわりについて

その他ご意見

- ・意見交換が在宅より外来中心の話しになっていたと思う。他職種の意見は参考になりました。
- ・もう少し時間をかけてグループワークできる日程がいいです。p h、包括、他職種とのつながり強化できる内容を検討してください。
- ・最後の木村会長の話がとても良かった。
- ・冬の夜はちょっと大変ですかね。みなさんの業務のことを考えると遅い時間なのだろうと思いますが、薬剤師以外の参加がもっと多いといろいろな意見が出ると思うので、もっとアピールして参加する方が増えるといいですね。
- ・多職種のやりとりの共通基盤のブラッシュアップのために IPE、IPW の研修を開催していただきたいです。薬局で経済困窮に気づき、病院の PSW に一報いただき、生活保護と通院安定に着地した事例がありました。そういう連携も増えるとよいですね。
- ・ケアマネと p h との交流、顔合わせがもっと必要。何回もこういったテーマで開催してほしい
- ・多職種と話せたこと、時間もきっかり守ろうとする姿勢がよかったと思います。
- ・在宅を経験した薬剤師、多職種とそうでない薬剤師、多職種との間で感覚が違うんだと感じた。それを知れただけでも良かった
- ・夜に研修することは問題ないのですが、できれば降雪前に開催していただければ参加しやすいです。このような機会があれば、今後も参加し顔の見える関係になっていきたいと思います。誰のために何を目標に支援していくか共有は大切だと思います。
- ・薬剤師の方の思いを伺うことができてよかったと思います。
- ・薬剤師さんと交流することが出来て知らなかったことを知ることができてよかった。次も同じような研修があったら是非参加したいと思います。
- ・他職種の考えなどを聞いてよかった
- ・薬剤師以外の方とお話をもっとできれば
- ・ケアマネジャーさんや他職種の方達ともっと話ができるとうれしいです
- ・もっと他の職種の方の話が聞きたい
- ・グループディスカッションのテーマを事前に知らせてくだされば、もっと具体的な話が展開できるのではと思った。
- ・地域包括支援センターの方と交流を持つことの重要性をとて感じた。薬局・薬剤師の役割についても良くわかっていないこともわかったので、今回お互いの話を聞いてとてもいい機会になりました。在宅にもっていくことに対するハードルが下がりました。
- ・開催は土日の開催 ・薬剤師以外の職種を多く集めてほしい。

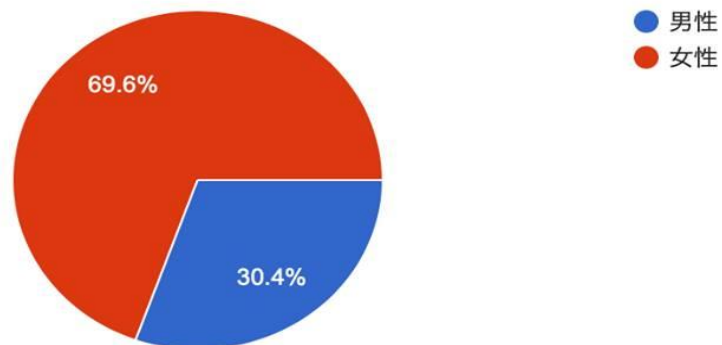
職種

46 件の回答



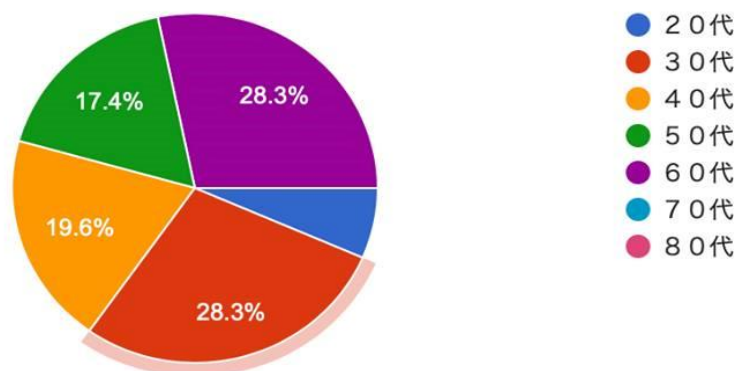
性別

46 件の回答



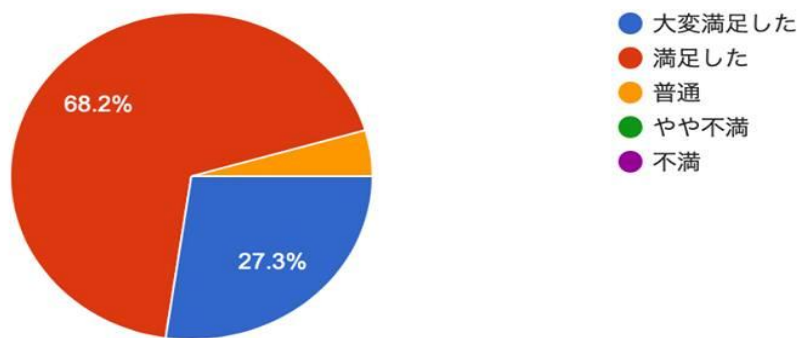
年代

46 件の回答



研修会の満足度

44 件の回答



平成 30 年度在宅医療研修会（病床機能転換専門研修）

報告者：大久保 幸子

11月28日（水）に八戸市において、青森県の委託事業である表記研修会が42名（薬剤師26名、他職種16名）の参加により開催されました。

今回の八戸地域では、

- 1、平成29年度のおためし事業等の報告 医療保険委員会 委員 前田 法晃
- 2、地域包括ケア実践のためのワークショップ
 話題提供
 一般社団法人青森県薬剤師会 副会長 青柳 伸一
 ワークショップ ファシリテーター
 一般社団法人青森県薬剤師会 会長 木村 隆次
 一般社団法人八戸薬剤師会 副会長 飯田 正彦
- 3、総括
 一般社団法人青森県薬剤師会 会長 木村 隆次

という次第で行われました。

まず、このような研修会を開催することが初めてだったため、手際が悪く、各所にご迷惑をおかけしたこと、改めてお詫び申し上げます。

反省点といたしまして、薬剤師以外への周知の徹底不足でした。このような研修会を開催する場合、どこに案内を出す必要があるのかわからず、後手に回ってしまいました。そのため、12月22日（土）に八戸市主催で行われる平成30年度八戸市医療・介護関係者多職種連携研修会と同じようなものと勘違いされて他職種の参加が少なかったのも要因のひとつにあげられます。

また、資料に関して、事前にどういったものか、把握していなかったため、出席者へどのような配布をしたらいいか、当日に決めるという形になってしまいました。なお、ポスターに関してはまだ検討中です。素敵なポスターなのでぜひ薬局全体に配布したいと思っております。ただし市内の薬局数の枚数ですので、八戸圏域の五戸町や三戸町、南部町などそのフォローはどうしたらいいのかわからず、良案が浮かんできませんでした。

県薬の委員という立場の理解が薄く、支部の人たちへの協力も寸前まで躊躇してしまいました。もう少し早い段階から声掛けし、一緒に働いてくれるかたを募ればよかったと思いました。

他職種との連携、ワークをメインとしたため、頂いたスライドをどこまで使用したらいいか、内容と時間の調整を当日行った点も改善できる部分だったかと思っております。

研修を開催して、参加者からの感想を以下にまとめさせていただきます

- ・お薬手帳の確認をすることでいつの残薬なのかがわかるので利用したい
- ・お薬手帳にケアマネの名刺だけでなく、介護保険証のコピーも挟んでもらえるといい
- ・薬剤師の職能をケアマネだけでなく家族さんにも知ってもらう必要性あり
- ・病院と外来とをつなぐというのは大切だ（退院時カンファレンス等）
- ・お互いに面識がないと敷居が高いので、顔見知りになる方法をもっと模索したい
- ・お薬手帳に書いてある薬局にまずは相談をしてみることに
- ・残薬解決に外来では相談できても在宅では敷居が高い
- ・薬剤師が残薬確認だけのために在宅に行くのはハードルが高い
- ・ケアマネと時間を合わせて一緒に訪問してみるところからチャレンジ
- ・お互いに求めている点も不明なところがある
- ・残っているお薬どうしたらいいかわからない→手帳記載の薬局に電話を
- ・連携シートなどあればいい
- ・薬局の都合も知って欲しい
- ・在宅に行きたいけれど介護認定受けてないとどうしたらいいかわからない
- ・残薬を機に一緒に在宅に行ってみる
- ・地域に核の薬局があれば連携しやすい
- ・顔をみて話をするのは大事だと感じた
- ・ケアマネが介入したらいいのにと思っても家族に相談したら不要といわれた
- ・お互いの仕事の理解が不十分
- ・気軽に来てくれるかわからないので相談するのも躊躇する
- ・依頼しようかどうかどうするかを検討する時点でまず薬剤師もいれて欲しい
- ・ケアマネさんにどうアクセスしたらいいかわからない

平成 30 年度在宅医療研修会（病床機能転換専門研修）

～『薬剤師による訪問服薬支援体制強化事業』（おためし事業等）を終えて～

報告者：伊藤 博次

10月26日（金）に五所川原市において、青森県の委託事業である表記研修会が90名（薬剤師40名、他職種50名）の参加により開催されました。

この事業は、西北五地域を皮切りに、県内6地域で開催される事になっており、年内に11/7 むつ、11/27 上十三、11/28 八戸、12/3 青森、12/6 弘前、の予定で順次開催されます。

今回の西北五地域では、

- 1、平成29年度のおためし事業等の報告 医療保険委員会 副委員長 津島 寿行
- 2、おためし事業の事例報告4件
五所川原市地域包括支援センター 保健師 中嶋 真哉様
グループホーム わらび 介護支援専門員 今 千秋様
サカエ薬局 肥後 佳範、成田 毅久
- 3、総括
『在宅医療の更なる推進を目指して』 会長 木村 隆次

という次第で行われました。

昨年度、この事業に取り組んでいる最中は、多岐にわたる内容であった為か、充実感や達成感などは微塵も感じ得る事は出来ていませんでしたが、こういう形で報告を終える事ができ、ある一定の評価をいただいた事も合わせますと、とても良い事業ができたかな！と実感できました。

さらに、90名という想像を超える盛況ぶりには驚きました。

懇親会の席で、この事業をきっかけに薬剤師さんとのハードルが下がったという声を聞き、他職種の中でも、連携の重要性を感じていただけたと確信し、嬉しく思いました。

この事業により、平成25年から3ヶ年で実施した『在宅医療支援センター薬局事業』と合わせますと、青森県の在宅医療における訪問体制は、へき地の課題は残りますが、整備されつつあるのではないかと考えております。

今後も訪問薬剤管理指導の普及啓発はもちろん、地域包括ケアシステムの構築に積極的に参加していきたいと考えております。

平成 30 年度在宅医療研修会（病床機能転換専門研修）

～『薬剤師による訪問服薬支援体制強化事業』（おためし事業等）を終えて～

報告者：石山 毅憲

11 月 7 日に行われましたむつ下北地域では、

- 1、平成 29 年度のおためし事業等の報告 医療保険委員会 委員 石山 毅憲
- 2、おためし事業の事例検討
 事例紹介 グループディスカッション 発表 医療保険委員会 委員 細川 智弘
- 3、総括
 『在宅医療の更なる推進を目指して』
 一般社団法人青森県薬剤師会 会長 木村 隆次

という次第で行われました。

参加者は 47 名と薬剤師より他職種が多く、遅い時間帯にも関わらず参加していただきました。クリニックの医師、むつ総合病院の看護師、ヘルパー、ケアマネージャー、相談員とグループディスカッションする際に、席順にも気を配り配置いたしました。地域包括の方々にもお声掛けをしたのですが、都合が合わず出席できなかったことが残念です。

おためし事業報告は滞りなく終了し、事例検討へとうつりました。

2 例行ったのですが、他職種でディスカッションするのに情報量が少ないと質問があり、事例の選択が甘かったと反省しています。時間配分も考えていたより順調に進まず、もっとシュミレーションが必要だと感じました。

一方で、初めて顔を合わせる職種の方も多く、薬剤師さんの話を聞いてよかったとのお声をいただけたことはとても良かったと思っています。

実際に薬で困っている事業者さんも多く、症例はいくらか参考になったかなと思います。